

新春対談

Part1

まちづくりへの思い

(樋渡) 伊勢谷さんは日本を代表する俳優でありながら、映画監督もされるなどさまざまな分野で活躍されています。

(伊勢谷) 萩や山口県の萩や岡山県の美作などで「まちづくり」にも参加されていますが、そのきっかけは何だったのでしょうか？

(伊勢谷) 萩で高杉晋作像の除幕式があったので、招待された際に、僕らから提案させていただきました。

(樋渡) 一過性のイベントではなく「まちづくり」に関わるんだという強い思いがあったんですね。

(伊勢谷) 僕らが一年間地元の人たちと接して次のビジョンを創ることができたかなあ、と。中央ではどうにもならないことも地方にはまだ可能性があるので…そこに希望を見出している

こともあって、ちょっと強引に「ただの除幕式には出ません」って。

(樋渡) 伊勢谷さんにとって、「まちづくり」はどういう位置づけなんですか？

(伊勢谷) 一般の方々がいかに楽しく生きているかで、その街の魅力でトンドン変わる。人々の交流があり、交流の理由もきっちりあって、それをディベロップする仕組みもあるような場所は楽しいんです。残念ながら批判や反発などでバラバラなことも多いですが…。

か。いきなり全員にというのは難しいですから、集まった人をファシリテートするというのが基本的なスタンスです。

「やる気」がなにより大事

(樋渡) これまで関わってきた、うまくいきそうだという地域はどういうところですか。これは手ごたえがあるぞって。

(伊勢谷) 始めてから2年目ですが、まだまだです。実際に関わらせていただいているのが富山県の南砺、宮城県の東松島など。東松島は被災地ですが、新しく4万人が暮らせる都市をゼロから作るということにも関わっています。ほかには、山口県の萩や岡山県の美作ですね。

(樋渡) そこで一番大事になってくるものは何ですか？

(伊勢谷) 僕が一年間ずっと関わった萩は、65歳以上が人口の70%を上めるようなところで、若い人だけじゃダメなのでその上の年齢層も取り込みたいんですが、なかなか決め手がなくて。結局、こちらが提案したことについて、地元の人たちにやる気があるかどうかなんです。

(樋渡) なるほど、「やる気」が大事ですか。私もそれには大いに同感です。

(伊勢谷) もう、無気力な人に何をしゃべったってどうにも響かなくて。次のビジョンを作るにも、あきらめている人にはどうにも難しいんですね。

何かやりたいんだという思いがあるんですけど、具体的なアイデアが見つからないというようなところに入っているって、何をすべきか僕らと一緒に考えます。

(樋渡) 私もしょっちゅうケンカしますけどね(両者爆笑)。

(伊勢谷) 僕らは、情報とか全体の意識の方向付けを手助けするとい



俳優／映画監督
株式会社リバープロジェクト代表
伊勢谷友介
Iseya Yusuke